

図書室だより

vol.135

中央大学高校図書室

☆ ことばは、自由だ ☆

『広辞苑 第七版』が発行されました。

第六版から10年ぶりの改訂ということで、ニュースなどでも取り上げられていますね。収録項目は、基礎語や日常語から外来語、専門語、そして新語や地名人名まで約25万語。このうち約1万語が新規に収録されました。1万語も増えて厚くなっているのでは？と思ったのですが、第六版とほとんど変わっていません。これは製紙会社と製本会社の技術によるところが大きいのです。そして、紙をめくる時の感触が独特で、「ぬめり感」と表現されて、指に吸い付く感じが素晴らしいとされています。

『広辞苑』の特徴の一つは、言葉の歴史がわかる辞書。現代の使われ方を優先するのではなく、言葉の元々の意味から記すのが鉄則だそうです。もう一つの大きな特徴は、定着した言葉だけを選ぶ。最先端の言葉を勇み足で採用しないそうです。これらは『広辞苑』の矜持（プライド）なのかもしれません。

『広辞苑 第七版』が図書室に入りました。紙の「ぬめり感」をぜひ体感してください！

そんな辞書作りに情熱を持って臨む編集者や編集現場の裏側を描いた作品を紹介します。

『舟を編む』 三浦しをん 著 光文社文庫 B913-ミ

著者の三浦しをん氏が岩波書店の辞書編集部取材した作品ということもあって、文庫本の解説を取材に応じた編集部員の方が書いています。光文社の本を岩波書店の編集者が解説するというところも面白いですね。本編とともに楽しみください。図書室には単行本、文庫版両方ともあります。

☆図書委員からのオススメ☆

『図書館の魔女』1巻～4巻 高田大介 著 講談社文庫 B913-タ-1～4

真の英知を究めようとする者たちが手に入る書物を渉猟しきった後で、さらなる一著を、さらなる一頁を、さらなる一言を探そうとし始めたとき、彼らが求める言葉はきっと史上最古の図書館「高い塔」に隠されている。

そしてそこには、その一著、一頁、一言が塔の無尽蔵の書架のどこに隠されているのかを、眉も動かさずにぴしゃりと指し、数多の言語を操る「高い塔の魔女（ソルシエール）」と呼ばれる少女が住んでいた…。

主人公キリヒトは、鍛冶の村で生活していたが、王宮の命令によりマツリカ（高い塔の魔女）に仕え、図書館の司書の仕事をするように言われる。文字が読めないキリヒトだが、マツリカと出会うことで、言葉の意味を知っていく。

続編含め全6巻あり、すべて読むには時間が掛かるが、読み応えのある作品で、独特な世界に引き込まれること間違いなし。メフィスト賞（講談社公募新人賞）も受賞していて、ファンタジー好きには是非読んでもらいたい作品。

2年 女子図書委員

3年生のみなさんへ

最終貸出日が2/9になります。その後は図書室内での閲覧のみになりますので、ご注意ください。ご利用はお早めに！